

1 「岩手の幸福に関する指標」策定の目的

- 経済成長は必ずしも人々の幸福とは繋がっていないとの研究結果（幸福のパラドックス）もあり、物質的なゆたかさだけでは様々な要素に着目することが重要。
- このような背景の中、県民の幸福を的確に把握することや、県民が自らの幸福について考えるきっかけとすること等を目的として、「岩手の幸福に関する指標」を策定する。
- そして、指標の次期総合計画への反映等を通じて、個人として、また、社会として幸福を求めることができる岩手県を目指す。

2 指標策定の基本方針

(1) 新たな施策の展開に活用できる指標とする。

短期的な数値の上昇や、他地域との比較を主眼とするのではなく、本県の強み弱みを多面的に分析し、よりよい施策への活用を重視する。

(2) 県民の実感を踏まえた指標とする。

県民意識調査の結果を重視した指標とする。また、指標を活用し、県民が自らの幸福について考え、身近な人や地域の幸福についても意識するきっかけとする。

(3) 物質的なゆたかさに加え、岩手が目指すゆたかさにも着目した指標とする。

幸福に関連する様々な要素を考慮するとともに、岩手ならではの生き方や人のつながりといったゆたかさにも着目する。

3 平成28年県の施策に関する県民意識調査結果

(1) 主観的幸福感について

- ・ 幸福の度合いを5段階で評価した主観的幸福感、既存の調査で聞いている生活満足度と比較すると、非経済的要素との相関が高い傾向があった。
- ・ 性別や年代等、多くの属性別集計結果において、先行研究等における調査と同様の傾向を示した。

(2) 幸福を判断する際に重視した項目について

- ・ 性別、年代及び主観的幸福感によって重視する項目が異なっていた。
- ・ 幸福を判断する際に重視した項目の順位は、先行事例と大きな差は見られなかったが、岩手県では、職場の人間関係や地域コミュニティとの関係を重視した割合が高い傾向があった。

(3) 領域別実感について

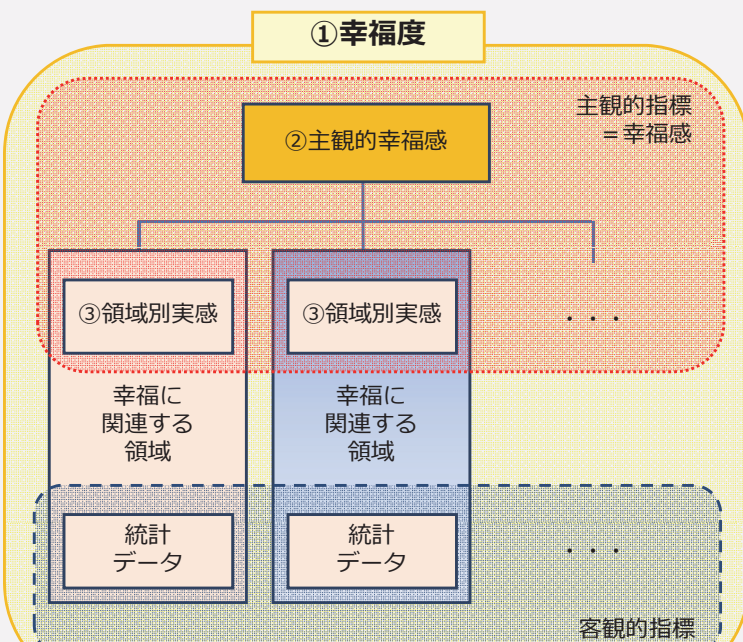
- ・ 幸福に関連するとされている領域（収入、家族等の12領域）の実感については、家族、安全等の実感が高く、収入、余暇等の実感は低かった。
- ・ 強弱の差はあるものの、全ての領域において、主観的幸福感との相関が見られた。

4 研究内容

◆用語の定義

研究会では次のとおり用語を定義する。

- 幸福度**
幸福感を表す主観的指標と、幸福に関連する統計データによる客観的指標で示されるもの。
- 主観的幸福感**
「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で評価したもの。
- 領域別実感**
幸福に関連するとされる領域毎に、その実感を5段階で評価したもの。



◆指標体系等の考え方

- 県民意識調査結果や先行事例に基づき、次の12領域を幸福に関連する領域とする。
 - ・ 仕事、収入、居住環境
 - ・ 安全、余暇
 - ・ 健康、子育て、教育
 - ・ 家族、コミュニティ、歴史・文化、自然環境
- 指標は、多面的な分析を可能とする観点から、個別指標の集まりである「ダッシュボード方式」で示す。
- 幸福は主観的な面の影響が大きいことから、主観的指標を中心とし、客観的指標で補足する。
客観的指標については、全国との比較が可能となる指標を盛り込む。
- 岩手が目指すゆたかさを表す指標として、「つながり」を表すことのできる指標設定に向け更なる検討を行う。
また、犯罪数に関するものや、労働時間に関するものなど、全国と比較して本県が特徴的な傾向を持つ指標を設定する。

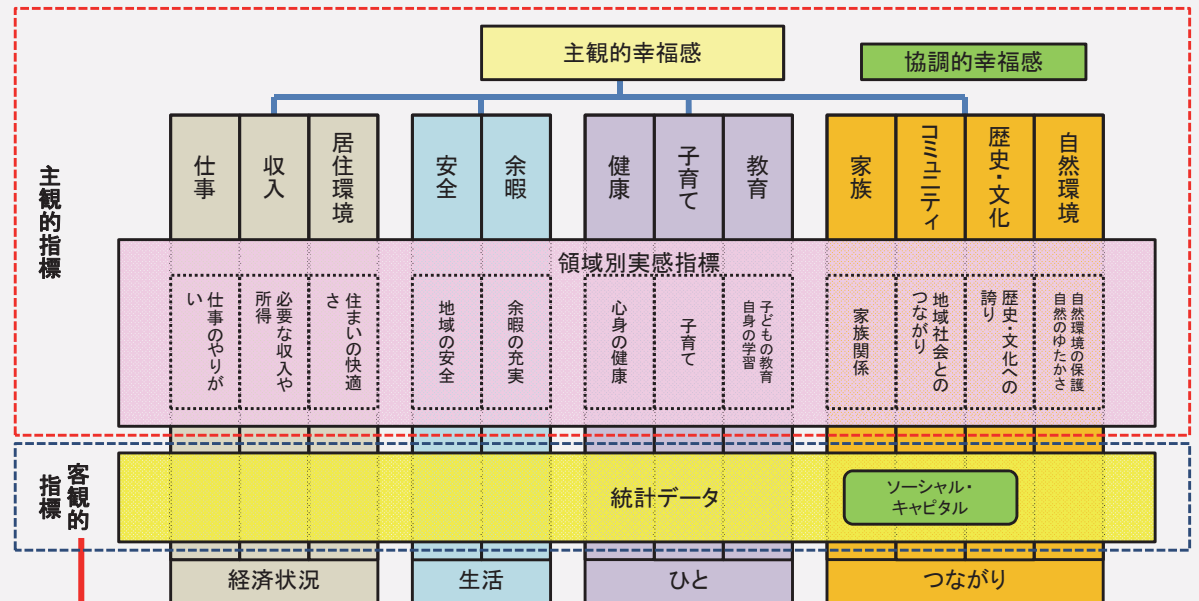
◆具体的な指標の考え方

- 主観的指標は、主観的幸福感と幸福に関連する領域毎の領域別実感で構成する。
客観的指標は、県民意識調査の結果や先行事例等を踏まえ設定する。
- 「つながり」を重視した指標設定に向け、ソーシャル・キャピタル※や協調的幸福感の調査を行う。

※ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）
集団内や集団間の協働を容易にする社会生活の規範、信頼、価値観のことを言う。

◆今後の検討課題

- 最終報告に向けて、以下の取組を実施する。
- ① **平成29年県民意識調査**：平成28年の県民意識調査で調査した、主観的幸福感や領域別実感について再調査を実施し、今回の調査結果との比較を行う。
また、ソーシャル・キャピタルや協調的幸福感について新規に調査を行い、主観的幸福感との関係等について分析する。
 - ② **県民参画等の方法の検討・試行**：ワークショップ等の方法の検討及び試行的実施。その際に活用するツール（幸福に関するテスト等）の検討。
 - ③ **具体的な客観的指標例の提示**：客観的指標について、更に具体的な指標内容の検討を進める。



領域名	客観的指標の項目例	領域名	客観的指標の項目例
仕事	失業関係、正規雇用関係、女性の雇用関係	子育て	出生率関係、待機児童関係
収入	収入・所得関係	教育	学歴関係、いじめ・不登校関係、生涯学習関係
居住環境	住宅面積関係、都市の緑化関係	家族	婚姻関係、男性の家事時間関係、親子の会話関係
安全	犯罪数関係、交通事故関係	コミュニティ	NPO・ボランティア活動関係、地域行事への参加関係
余暇	趣味・娯楽活動関係、労働時間関係	歴史・文化	文化財関係、文化関連施設関係
健康	寿命関係、自殺関係、介護関係	自然環境	環境基準関係、森林関係、エネルギー関係